



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第20回例会(11月30日)
平成24年12月7日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳アパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週金曜日12時30分～

会 長 藤村 文昭
幹 事 佐藤 重昭
会 報 福田 荘介
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通じて平和を Peace Through Service..... R会長 田中作次



ゲスト卓話

没後百年「愛され続ける啄木～啄木歌碑を中心に～」

石川啄木記念館 学芸員
山本 玲子 様

スピーカー紹介

山本玲子さんは八幡平市のお生まれ。1980年に岩手県立博物館勤務され、その後1990年に石川啄木記念館の学芸員として勤務され現在に至っております。

1992年に岩手日報文学賞「随筆賞」受賞。1997年にはNHK東北ふるさと賞を受賞されるなど、啄木関係の著書がたくさんございます。またIBCのラジオ番組(土曜朝7時10分)「石川啄木うたごよみ」にレギュラーでご出演頂いております。

●主な著書

『花と香りとの暮らし』・『啄木の妻 節子』・『啄木歌ごよみ』・『拝啓 啄木さま』・『夢よぶ啄木 野をゆく賢治』・『啄木と明治の盛岡』・『改訂版 拝啓 啄木さま』・絵本『サルと人と森』・『啄木うた散歩』

(阿部 広会員)

啄木の第一号歌碑… 「悲しみこそはの力」

石川啄木が幼少年時代を過ごした宝徳寺にほど近く、かつての奥州街道、国道四号線沿いの玉山村浜民に石川啄木記念館が建設されたのは昭和45年4月13日、啄木、59回目の命日であった。この年、岩手県では第25回国民体育大会

があり、観光客誘致が一つのねらいで館建設が促進されていた。しかしそれ以前から村内外の多くの啄木愛好者から館建設の要請があったからである。

玉山村内の啄木顕彰は啄木没後10年に建立された北上河畔の歌碑に始まる。大正11年4月13日に建立されたこの歌碑は、岩手県出身の文学青年らが中心となって資金を集め、石を運ぶにあたっては玉山村内から200人もの村人が出て、姫神山のふもとから高さ約4・8メートル、重さ約13トンもの花崗岩が鶴塚と呼ばれる地まで運ばれ、建立された。碑の裏面には「無名青年の徒之を建つ」の文字が見えるが、自らを「無名」と名乗る青年たちの当時の写真を見ると、建立されたばかりの碑の前で仲間と肩を組み、意気揚揚として写っている。啄木が死んでわずか10年で、歌碑が建ったことは、当時の時代背景を考えても実に勇気ある行動だったと思わざるをえない。と同時に啄木文学が急速な勢いで浸透していたことをうかがうことができるのである。

除幕式の時、啄木の友人土岐善麿によって『君の碑は今こそ建ちたれ/ふるさとに/そのふるさとの青年の手に』『北上の岸辺の柳目にみゆと/嘆きし友を/そこに葬る』という二首が捧げられ(石川啄木記念館所蔵)、披露された。その後大正15年8月1日に函館の立待岬の墓碑に

「東海の/小島の磯の/白砂に～」が刻まれ、以後今日まで170基程の啄木碑が全国に建立されている。

昭和36年4月、日本テレビ制作の特別番組「石川啄木五十年忌 記念講演会場ヨリ中継」の台本（石川啄木記念館所蔵）を見ると、金田一京助が「五十年前の四月十三日」というテーマで、続いて土岐善麿が「我等の一団と彼」というテーマで、講演しているほか、啄木の妹・三浦光子とアナウンサーとの対談があり、最後に浜民小学校鼓笛隊の演奏という内容になっている。その台本の扉には金田一京助の筆跡と思われる字で、「君逝きてこゝに五十年世の中はおほかた君の言ふ様になれり」という歌も記されている。啄木文学が多くの人々に受け入れられている様子を、金田一京助はそのような歌にしたのだろう。

啄木文学の愛好者は増え、啄木のふるさとにいいよ記念館が建設された。その際の趣意書には「老境に達せられた教え子たちの、思師をふるさとに迎えたいとする切なる訴えが、広く郷土の者の心を動かし、その運動は一層高まりを見せたのであります。このたかまったわたしたちの心が、ようやくここに結集し、遺墨、遺品、あるいは関係する諸資料を可能な限り一堂に収集、保存、展示し、常時一般の展覧に供しようと、ふるさと浜民の地に、石川啄木記念館の建設を計画いたしました。」とある。

館の起工式の年（昭和44年4月13日）、啄木の教え子たちは「啄木の魂を迎え入れる儀式」を行なったことが新聞で報じられている。啄木が代用教員時代に下宿していた浜民の斉藤家から宝徳寺境内までパレードしている写真には、かつての教え子たちも腰が曲がり杖をついている人もいるが、「啄木先生を心から迎え入れたい」という情熱が伝わってくるようである。まさにこうした教え子たちによる「帰郷運動」が啄木記念館という形になったといえよう。

村内外から約1,100万円の浄財が集められ、昭和45年4月13日に啄木記念館は完成した。敷地面積123.7平方メートル、鉄筋コンクリートの高床式平屋建てで、五角形の時計の形をし

た造りである。啄木の小説「雲は天才である」に描かれている振り子時計からイメージしたものとと言われる。県内の博物館・記念館施設としては比較的早く建てられたとも言える。この年の入館者数は27,224名で、以後少しずつ入館者数を増やした。

さらに啄木生誕百年記念事業として、記念館の増築が提案されたが、資料の立体的な展示方法で、これまでの約三倍の広さに新築することとなった。再び村内外から約一億三千万円の浄財を集め、昭和61年5月3日に「百年記念館」がオープンした。白い洋館風の建物で、それは啄木の詩稿ノート「呼子と口笛」に描かれている「家」からイメージされたものだった。「…今朝も、ふと、目のさめしとき、/わが家と呼ぶべき家の欲しくなりて/場所は、鉄道から遠からぬ、/心おきなき故郷の村のはづれに選びてむ。/西洋風の木造のさっぱりとしたひと構へ、/高からずとも、さてはまた何の飾りのなくとも…」とあるように、まさに啄木の理想の「我が家」にふさわしい記念館となった。また、ミュージアムの本来の機能である社会教育・研究資料センターとして、企画展・各種講座・調査研究・資料の収集と保存等々の活動も展開された。

浜民のかつての奥州街道は車の量も多くなったが、岩手山は昔のままの姿を見せ、北上川の優しいせせらぎが聞こえ、初夏には閑古鳥がやってきて林をかけめぐっている。

第一号歌碑に寄せた金田一京助の祝辞

柔かに柳青める北上の
岸辺目に見ゆ
泣けとごとくに

そのむかし君がよく教へ子
たちと一所に散歩をした
想ひ出の丘

麓もとから北上川の流を見
おろし
遠く岩手山のしら雲と

姫神嶽のむらさきを仰
 ぐところ
 とこしなへに君が英霊を
 やすらへ かつは
 君に対する思慕の象
 徴として はた
 雄々しき悲しき偉大な
 る君が體驗の記念とし
 て
 この洪民全村の家々の
 人たちの手と
 生（キ）一本の青年たちの涙
 と汗とを以て此處に建
 てた不磨の贈物を
 在天の靈よ希くは髣
 髴として来り享
 け給へ
 歓びは東の間
 眠りと 憎しみも。
 悲みこそ とはのちから

除幕式の日

金田一京助

津波に流された啄木の歌碑

石川啄木は、明治三陸大津波の4年後（明治33年7月21日）に高田松原（陸前高田市）を訪れており、三陸沿岸の大津波の被害状況を目の当たりにしています。

昭和32年7月21日に啄木の来訪を記念し、高田松原に歌碑が建立されました。

命なき砂のかなしさよ
 さらさらと
 にぎればゆびの間よりおつ

啄木の友人・船越金五郎の揮事によるものですが、昭和35年5月のチリ地震津波によって流されました。のちに土砂の中から発見されましたが、碑面の文字に誤りがあることが理由で、氷上神社に建立し直されました。

昭和41年7月21日に金田一京助の揮事により、再度、歌碑が建立されました。碑面には次のように記されています。

いのちなき砂のかなしさよ
 さらさらと
 握れパ指のあひだ、より落つ
 啄木

曾遊の地高田松原を
志のびて

昭和四十一年五月廿日

金田一京助

その歌碑も、昨年の東日本大震災により7万本の松とともに流失されました。海の中にあるその歌碑は、何処かで今なお犠牲となった多くの魂を慰めております。

そこで、没後百年記念事業実行委員会は、今でも悲しみ、苦しんでいる人々の心を癒やす一助とし、啄木の心を捉え、今日を見つめ未来への礎になるよう、新たな記念碑を陸前高田市へ建立するものです。

建立場所

陸前高田市と協議の上、決定します。

建立予定期日

平成二十五年二月二十日（啄木生誕の日）

この歌碑を建立するために盛岡ロータリークラブの皆さまからたくさんのご協力をいただきまして、本当にありがとうございます。お礼を申し上げたくて、今日は参りました。

例会報告

第20回例会 平成24年11月30日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 藤村文昭会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・ゲスト 山本玲子様(石川啄木記念館 学芸員)。
- ・結婚祝 桑田周一君。
- ・会長報告 藤村文昭会長
- ・幹事報告 佐藤重昭幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡西R.C.=12月13日(木)は年忘れ家族会のため18:30~に時間変更。12月27日(木)は特別休会。
- 盛岡東R.C.=12月3日(月)は12月2日(日)第1分区IM開催へ振替。12月17日(月)はXmas家族会のため12月16日(日)18:00に日時変更。
- 盛岡滝ノ沢R.C.=12月20日(木)は

クリスマス会のため「ラドルチェヴィータ」。12月27日(木)は特別休会。

【ニコニコBOX】

- ◆近藤 駿君…今日は早速用意した昼御飯の数より多くの会員が出席して下さいました。感謝してニコニコします。
- ◆吉江信博君…今月2週に亘ってお休みを頂きました。旅行業者の関与なしに、日本語だけでイタリア旅行をしてきました。ローマ・フィレンツェ共にとても良かったです。日本語の通じる日本はそれ以上に良い所と再認識しました。
- ◆岩野法光君…【その1】11月5日…東京の明治記念会館に於いて防災安全推進功績表彰を受けてきました。【その2】11月23日…新装となった東京ステーションホテルのレストランで義兄の傘寿(80歳)、妻の還暦のお祝いをしてきました。宿泊もしたかったのですが、来年2月末まで予約がいっぱいで

無理でした。レストランもかなり混んでいたようですが、大見山会員に特別に席を用意していただきました。当日はお祝いのシャンパンなど至れり尽くせりでした。大見山会員、本当にありがとうございました。

- ◆千葉隆史…春以来、診療所の建て替え工事を行ってりましたが、お陰様で昨日竣工し、来週から新しい使節で診療を開始いたします。多くの会員の皆様から御協力、御指導、御助言いただきました。心より御礼申し上げます。

●メークアップ

地区=民部田君。盛岡北R.C.=吉田(幸)君。盛岡西R.C.=星君。盛岡中央R.C.=千葉・山岸・嘉本・市丸・村井君。盛岡西北R.C.=平野・岩野君。盛岡滝ノ沢R.C.=菊池君。クラブ委員会=佐藤(義)・白石・吉田(育)・吉江・田中・矢後・谷藤・大見山・道脇・金子君。



出席報告

会員数 /64 名

出席数 /41 名

出席率 /74.54%

前回回修正出席率/85.45%

プログラムの お知らせ

- ・12月 7日(金) ゲスト卓話 木村 剛 様(株)ペアレン醸造所 代表取締役社長
「人を結ぶビール」
- 14日(金) 年次総会、会員卓話 高橋真裕君
「最近の金融経済動向」
- 21日(金) 年忘れ家族会
- 28日(金) 特別休会

●本号編集担当 / 嘉本 孝志

●次号編集担当 / 福田 泰司